

第4学年 国語科学習指導案

日 時 平成18年10月18日(水) 5校時
児 童 4年 男子10名 女子7名 計17名
指導者 猪 澤 香 織

1 単元名

場面をくらべて読もう 「一つの花」(光村図書 国語下 はばたき)

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、学習指導要領「C読むこと」の目標「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」を受けて設定した。

本教材は、戦争中と戦後の二つに大きく分かれており、三つの場面から構成されている。戦争という時代の大きな移り変わりの中で、懸命に生きるゆみ子の家族の姿を通して、悲しみを乗り越えて生き続ける人間の強さと美しさが主題として描かれている。さらに、作品の随所に対比的な表現が、見られ、「一つだけ」のコスモスと「いっぱい」のコスモス、「一つだけ」の食べ物と「お肉とお魚どっち」など、戦争中と戦後の場面を比べてその違いを読み取ることができる。「一つだけ」という現実と「みんな、山ほど、両手を出す」という両親の願い、プラットホームでの見送りにも対比的な表現が用いられ、場面の状況や人物の心情をより明確に浮かび上がらせている。また、比喩的表現や、ダッシュは豊かなイメージの広がりをもたらし、人物の心情についてさまざまな思いを持つことができる。これらのことから本教材は単元のねらいに適した教材であると思われる。

(2) 児童について

4月教材の「三つのお願い」では言葉や表現に気をつけて読むこと、6月教材の「白いぼうし」では会話や行動から登場人物の気持ちや人柄を考える学習をした。子どもたちは、これまでの学習で一人学びとして、サイドラインを引いたり、書き込みを行い自分なりの読み取りをしていく学習を進めてきた。根拠となる文や言葉を探してサイドラインを引くことはできるようになってきたが、場面や心情を想像して読み深め書き込みをすることができる児童は多くはない。これは、語彙が乏しいために場面のイメージを的確にとらえられないことと、思ったことや感じたことを効果的に表現する力が十分でないためと思われる。また、子どもたちの意識調査から見ると、自分の考えに自信が持てず、進んで発表できないという児童が多い。

(3) 指導にあたって

本単元は、人物の気持ちの変化や場面の移り変わりを想像しながら読むことをねらいとしている。

そこで、「つかむ」段階では、戦時下の庶民の生活が分かるような資料を活用し、人物の心の動きを豊かに想像できる手立てとしたい。

「ふかめる」段階では、戦争という厳しい社会状況の中で幼いゆみ子を見守る両親の深い愛情と悲しみ、そして「一つの花」の意味するものについて子供なりに考えることができるようにしたい。また、戦中と戦後の場面を読み比べながら想像豊かに読むために、語句に着目して読み取る学習をする。そこで、ゆみ子やゆみ子を見守る両親の行動や表情、会話などから重要語句を選び、書き込み、音読などを位置づける言語活動を取り入れる。特に、一人学びではサイドライン・書き込みなどで、情景や人物の気持ちの変化をとらえることができるようにする。学び合いでは、自分と友だちの考えの共

通点や、相違点に気をつけながら聞くことで、課題解決の根拠となる表現をとらえ、ねらいに迫ることができるようになりたい。

「まとめる」段階では、登場人物の気持ちや場面の様子を考えながら音読したり、感想を書いたりする活動を通してさらに題名の意味するものを考え、読み取りのまとめができるようにしたい。

3 単元の目標

登場人物の様子と場面の様子を作品の中の大事な言葉に気をつけて想像しながら読む。
題名に込められた作者の思いについて自分なりの考えを持ち、友達の考えと比べる。

(1) 関心・意欲・態度

・場面や登場人物の様子を想像しながら読もうとしている。

(2) 読む

・登場人物や場面の様子を、作品の中の大事な言葉に気をつけて想像しながら読んでいる。
・題名「一つの花」に込められた作者の思いについて自分なりの考えを持ち、友達の考えと比べている。

(3) 言語事項

・語句の意味を理解し、文末表現、指示語、接続語、などの働きについて理解を深めることができる。

4 単元指導計画と評価計画（時間10時間 本時7 / 10）

過程	時	目 標	具 体 の 評 価 規 準		
			B(概ね達成)	A(十分達成の一例)	C(努力を要する子への手立て)
つかむ	1	・全文を通読し、初発の感想を書くことができる。	関：初発の感想を書いている。 (発言・ノート)	叙述に即して具体的に感想を書こうとしている。	特に心に残ったこと、疑問に残ったことなどについて感想を持たせる。
	2	場面分けをし、学習計画を立て学習課題を考えることができる。	関：感想をもとに課題を考えている。 (発言・ノート)	感想をもとに課題を考え、心に残ったことやみんなで話し合いたいことなどについて進んで発表しようとしている。	友だちの感想をもとにして物語のイメージを持たせ、課題を考えさせる。
ふかめる	3・4	戦時下の生活の厳しさや、その中でゆみ子が育った様子を読み取ることができる。	読：戦時下の生活の厳しさや、その中でゆみ子が育った様子を読み取っている。 (発言・ノート)	場面の状況をとらえながら、ゆみ子が「一つだけちょうだい。」という言葉を感じたわけを叙述に即して読み取っている。	食べ物や町の様子、母親の言葉などの叙述に着目させる。
	5	父親の言動から、ゆみ子に対する父親の気持ちを想像することができる。	読：父親の言動から、ゆみ子に対する父親の気持ちを想像している。 (発言・ノート)	父親の会話文に着目して読み、ゆみ子を案じる気持ちを想像している。	ゆみ子に対する気持ちが分かる言葉を探し、父親の気持ちを想像させる。

ふかめる	6	戦争に行く父親と見送る母親とゆみ子の様子を読み取ることができる。	読:戦争に行く父親と見送る母親とゆみ子の様子を読み取っている。 (発言・ノート)	ゆみ子の家族と周囲の様子を比べ、ゆみ子の家族の様子を読み取っている。	ゆみ子の家族について書かれているところを見つけさせる。
	7 (本時)	一つの花をわたしたときの、ゆみ子に対する父親の気持ちを読み取ることができる。	読:一つの花をわたしたときの、ゆみ子に対する父親の気持ちを読み取っている。 (発言・ノート)	一つの花にこめられた父親の気持ちを読み取っている。	友だちの言葉を参考に、自分なりの考えを持たせる。
	8	戦中と戦後の場面を比べて平和な生活の様子を読み取ることができる。	読:戦争中と戦後の様子を比べて、平和な生活の様子を読み取っている。 (発言・ノート)	戦争中と戦後の様子を比べて、平和な生活の様子やゆみ子の成長を読み取っている。	戦後のゆみ子の生活の様子が分かるところを見つけさせる。
まとめる	9・10	「一つの花」が意味するものを考え感想をまとめ、友だちとの感想の違いについて気づくことができる。	読:自分なりの考えを持って感想を書き、友達との感想の違いに気づいている。 (発言・ノート)	自分なりの考えや作者の思いについて感想を書き、友達の感想との違いに気づいている。	初発の感想を読み返したり、各場面で読み深めたことを確認したりして感想を書かせる。

5 本時の授業

(1) 本時の目標

一つの花をわたしたときの、ゆみ子に対する父親の気持ちを読み取ることができる。

(2) 指導にあたって

本時は、父親が自分の思いを託した一輪のコスモスの花をゆみ子に手渡し去っていく場面である。叙述に即して人物の心情や場面の様子を想像しながら読み取らせたい。

「一人学び」の段階では人物の心情や場面の様子が表れている文にサイドラインを引かせ、書き込みをさせたい。

「学び合い」の段階では、想像したことを発表し交流させることで、友達との共通点や相違点に気づかせ、自分なりの読みを深めさせたい。

(3) 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価 (準備するもの)
つかむ 5分	1 前時の学習を想起する。	・前時のまとめを振り返り、両親の切ない気持ちを想起させる。	・前時の学習掲示
	2 学習課題を確認する。 お父さんは、どんな思いで一つの花をわたしたのだろう。		
	3 学習場面を音読する。 ・一斉読み	・学習の見通しを持たせる。 ・お父さんの会話や行動に気をつけて音読させる。	

ふかめる 35分	<p>4 一つの花にこめられた父親の気持ちを読み取る。 (1)父のゆみ子に対する気持ちが表れているところにサイドラインを引く。(一人学び)</p> <p>(2)コスモスの花が咲いていた様子についてとらえる。</p> <p>(3)一つの花にこめた父親の気持ちについて書き込む。(一人学び)</p> <p>(4)父親の思いについて想像したことを交流する。(学び合い) ・となりどうして自分が想像した気持ちを交流する。(ペア学習) ・全体で交流する。(一斉学習)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各自黙読し、お父さんの気持ちが分かるところにサイドラインを引かせる。 ・サイドラインを引いたところを発表させ、確認する。 <p>「はしっぱ」「ごみ捨て場のような所」「わすれられたように」などの言葉に気づかせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ただ泣きやんで欲しいだけでなく、最後の別れになるかもしれないという状況であることをとらえさせる。 	<p>【評価】 一つの花にこめられた父親の気持ちを想像している。 (ノート・観察)</p> <p>【評価】 友だちとの共通点や相違点に気づくことができたか。 (発言・観察)</p>
まとめる 5分	<p>5 本時のまとめをする。 ・音読によって学習したことを振り返る。</p> <p>6 学習を振り返る。</p> <p>7 次時の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・父親の心情が聞く人にも伝わるようにという視点で読ませる。 ・学習を振り返り、分かったことや感想を発表する。 ・十年後のゆみ子について学習することを確認する。 	

(4) 板書計画

きてほしい。
どんなときも笑顔をわすれず強く美しく生きてほしい。

挿 絵

笑顔でいて
忘れないで
最後まで
お父さんの代わり
に大切に
強く美しく
生きてほしい
心の優しい
子になって
ほしい

「ゆみ。さあ、一つだけあげよう。一つだけのお花、大事にするんだよう。」

一輪のコスモスの花
ブラットホームのはしっぱ
ゴミ捨て場のような所
わすれられたようにさいていた

四
お父さんはどんな思いで一つの花をわたしたのだろうか。

一つの花

今西 祐行

第2場面		第1場面	
ゆみ子に一つの花を託して出征していく父	戦争に行く父を見送りに行く母とゆみ子	ゆみ子を見守る両親の嘆き	「一つだけちょうだい」を最初に覚えたゆみ子
<p>・ところが、いよいよ汽車が入ってくるというときになって、またゆみ子の「一つだけちょうだい。」が始まったのです。</p> <p>・お母さんはゆみ子をあやしましたが</p> <p>・プラットホームのはしっぱの、「ゴミすて場のよつな所に、わすれられたようにさいているコスモスの花」。</p> <p>「ゆみ。さあ、一つだけあげよう。一つだけのお花大事にするんだよう。」</p> <p>お父さんはそれを見てにっこり笑つと、何も言わずに汽車に乗って行ってしまいました。ゆみ子のにぎっている「一つの花」を見つめながら。</p>	<p>・あんまりじょうぶでないお父さんも戦争に……</p> <p>・お母さんの……かばんには……包帯、お薬、……大事なお米で作ったおにぎりが……</p> <p>・「一つだけちょうだい、おじぎり、一つだけちょうだい。」</p> <p>・駅に着くまでにみんな食べてしまいました。</p> <p>・お母さんは、戦争に行くお父さんに、ゆみ子の泣き顔を見せたくなかつたのでしょうか。</p> <p>人ごみ</p> <p>ばんざいの声</p> <p>勇ましい軍歌</p> <p>ほかに見送りのない</p> <p>小さくばんざい</p> <p>軍歌の声に合わせて歌って</p> <p>まるで戦争なんかに行く人ではないかのように</p>	<p>・そんなとき、お父さんは決まってゆみ子をめっちゃくちゃに高い高いするのです。</p> <p>・なんてかわいそう……。一つだけちょうだいといえばなんでももらええると思っ ているのね。」</p> <p>・お父さんが深いため息をついて言いました。</p> <p>「この子は、一生……、両手を出すことを知らずにするかもしれないね。一つだけのにぎり飯、一つだけのかぼちゃのにつけー。みんな一つだけ。一つだけの喜びさ。いや、喜びなんて、一つだってもらえないかもしれないね。いたい……。どんな子に育つんだらう。」</p>	<p>・「一つだけちょうだい。」</p> <p>・ゆみ子のはつきり覚えた最初の言葉……</p> <p>・まだ戦争の激しかったころ</p> <p>・そのころは、おまんじゅうだの、キャラメルだのチョコレトだのそんな物はどこに行ってもありませんでした。</p> <p>・食べるものといえば、お米の代わりに配給される、おいもや豆やかぼちゃしかありませんでした。</p> <p>毎日、敵の飛行機が飛んできて、ばくだんを落としていききました。</p> <p>町は、次々に焼かれて、はいになっていきました。</p> <p>・ゆみ子は、……もつともつとくらくらもほしがるのでした。</p> <p>・「じゃあね、一つだけよ。」</p> <p>・「一つだけー。」</p> <p>・お母さんの口ぐせを覚えてしまったのです。</p>
<p>・兵隊</p> <p>・ぷいとー</p> <p>・はしっぱ</p> <p>・わすれられたように</p> <p>・あわてて</p> <p>・一輪</p> <p>・一つだけのお花</p>	<p>・戦争に行かないければならぬ</p> <p>・防空頭巾</p> <p>・包帯、お薬、配給の切符</p> <p>・大事なお米</p> <p>・ばんざい</p> <p>・軍歌</p>	<p>・深いため息</p> <p>・みんな一つだけ</p> <p>・そんなとき</p> <p>・めっちゃくちゃに</p>	<p>・一つだけ</p> <p>・配給</p> <p>・ばくだん</p> <p>・いつもおなかをすかしていた</p> <p>・口ぐせ</p> <p>留意すべき言語事項</p>

第3場面

十年後のゆみ子と母親の生活

・それから十年の月日がたちました。
・ゆみ子はお父さんの顔を覚えていません。自分にお父さんがあったことも、あるいは知らないのかもしれない。
・とんとんぶきの小さな家は、コスモスの花でいっぱいに包まれています。
・そこからミシンの音が速くなったり、遅くなったり、何かお話をしているかのよう
・ゆみ子の高い声
「母さん、お肉とお魚とどっちがいいの。」
・買い物かごをさげたゆみ子が、スキップをしながら、コスモスのトンネルをくぐって出てきました。
・ゆみ子が小さなお母さんになって、お昼を作る日です。

・とんとんぶき
・包まれて
・そこから
・スキップ
・コスモスのトンネル